

山城地域における道路環境の課題について

質問：北川議員

令和5年度に新名神高速道路が開通することで、山城地域の環境は大きく変化し、発展が期待されるが、経済的効果が地域全域に及ぶには多くの課題が山積している。特に、木津川右岸地域は地形が険しく、交通基盤整備が遅れ、自然災害に対して脆弱であり、道路も未整備区間が多く、日常生活にも深刻な影響を及ぼす中、山城地域における道路環境の課題に関し、次の諸点について、知事の所見を伺いたい。

- (1) 令和5年度の新名神高速道路開通や、令和7年度の大阪・関西万博開催を見据え、山城地域の経済、観光、お茶、農業をどのように発展させていくのか。
- (2) 新名神高速道路の開通と同時期に宇治田原山手線の宇治田原町役場までの開通や、宇治木屋線のトンネル整備が整うことで、新名神高速道路の開通効果が更に発揮されるため、同時期の完成を目指すべきと考えるが、現在の整備状況と完成見込みはどうか。
- (3) 京滋バイパス宇治東ICと新名神高速道路や国道24号城陽井手木津川バイパスを繋ぐ道路整備を行うことで、新たな観光ルートが生まれるなど、山城地域における新名神高速道路の整備効果が向上すると考えるがどうか。

答弁：知事

北川議員の御質問にお答えいたします。
山城地域の発展についてでございます。

新名神高速道路の全線開通や大阪・関西万博の開催がもたらす波及効果をしっかりと捉え、京都の未来づくりにつなげていくことは、府政を推進していく上で極めて重要な課題でございます。

これまで京都府では、府域の均衡ある発展に向けて、成長・交流の基盤となるインフラ整備を進め、多彩な先端技術を有する企業群などを活かした京都産業の成長・発展につなげますとともに、「お茶の京都」や「竹の里・乙訓」などの「もうひとつの京都」の取組を推進するなど、地域の特性や資源を活かした地域づくりを進めてまいりました。

新名神高速道路の全線開通などが間近に迫りつつある中で、国家プロジェクトの効果を府全域に行き渡らせ、更に、地域に新たな価値を創出し、その魅力を高めて、地域の活力の向上を図っていかねばならないと考えております。

山城地域については、これまで山城地域振興計画のもと、学研地域などエリア特性に応じた地域づくりを推進いたしますとともに、AI・IoTを活かした次世代産業の創出や、観光・農業な

ど地域の未来を支える産業の振興などに取り組んでまいりました。

そうした中で、新名神高速道路の全線開通効果をはじめ、万博で見込まれる世界の英知の結集や豊かな日本文化の発信、国内外からの投資拡大といった効果を、山城地域の発展につなげていくためには、これまで以上に取組のレベルを上げていく必要があると考えております。

具体的には、国土交通省から候補地の一つとして選ばれた城陽エリアにおける高度な物流拠点づくり、食関連の研究機関や企業の集積による、新たな食産業エリアの創出、世界にも類を見ないオープンイノベーションの拠点となるアート&テクノロジー・ヴィレッジの整備など、府域への波及効果にも期待できるプロジェクトを推進してまいりたいと考えております。

また、地域産業の振興を図っていく取組として、「お茶の京都」の更なる推進による、世界市場における宇治茶のブランド価値の向上、「九条ネギ」の6次産業化のノウハウを活かした「京やましろ新鮮野菜」の更なる市場の開拓、相楽東部エリアの豊かな自然とカヌー・ボルダリングなどのアクティビティを結びつけた、アドベンチャーツーリズムの展開による観光誘客の拡大などに取り組んでまいりたいと考えております。

今後、こうした取組を速やかに実行に移し、山城地域の更なる発展につなげ、ひいては、その効果を京都の未来の成長へとつなげてまいりたいと考えております。

また、宇治田原山手線、宇治木屋線の整備状況と完成見込みについてでございますが、宇治田原町内の国道 307号は、災害時の脆弱性を有するだけでなく、平常時も著しい渋滞が発生し、沿線企業からも、交通の円滑化を強く求められているところでございます。

国道307号のバイパスとして機能する宇治田原山手線につきましては、東西の通過交通の円滑化を図るとともに、災害時のリダンダンシー機能確保を目的として、供用済の宇治木屋線南バイパスから宇治田原町役場までの1.4kmの区間におきまして、町事業と一体となった整備を進めており、現在、全ての用地買収が完了し、橋梁等の工事を計画的に実施しているところでございます。

また、和東町と新名神高速道路宇治田原インターチェンジを直結する宇治木屋線につきましては、現在、宇治田原町側から進めている犬打峠のトンネル掘削が順調に進捗しているほか、和東町側につきましても、アプローチ部の整備が進み、年内にもトンネル入口部の工事に着手できる予定でございます。

宇治田原山手線及び宇治木屋線は、新名神高速道路のアクセス道路として、また、リダンダンシー確保も含めた強靱な道路ネットワークとして、重要な役割を担いますことから、新名神高速道路の開通に合わせて供用できるよう、引き続き、一日も早い工事の完成を目指してまいりたいと考えております。

答弁：建設交通部長

京滋バイパス宇治東 I C と新名神高速道路や国道 24 号城陽井手木津川バイパスを繋ぐ道路整備についてでございます。

現在、新名神高速道路の沿線では、令和 5 年度の供用開始にあわせた開業が予定されているアウトレットモールの建設工事が進められるなど、既にまちづくりが始まっており、地域の活性化に対する地元の期待は非常に大きくなっております。

京都府といたしましても、新名神高速道路の開通効果を木津川右岸地域全体へ波及させるため、国直轄事業の国道 24 号城陽井手木津川バイパスの整備促進とともに、国道 307 号や宇治田原山手線、宇治木屋線の整備を推進しているところでございます。

議員御指摘の京滋バイパス宇治東 I C と新名神高速道路や国道 24 号城陽井手木津川バイパスを結ぶ道路整備につきましては、宇治市内の人流・物流を活性化させるというプラス面がある一方、平等院などの観光名所付近の道路混雑をさらに助長するなどのマイナス面が想定されることもあり、整備構想はあるものの未だ具体化しておりません。

京都府といたしましては、新名神高速道路の沿線開発や今後の交通量の推移を見ながら、地元の御意見を伺ってまいりたいと考えております。